

広報 あいづ ばんげ

9

No.673
2020

目次 -CONTENTS-

続報 高寺山遺跡調査成果 奈良時代の遺物発見！	2
10月1日より国民健康保険証が更新されます	4
9月は「健康増進普及月間」です	5
第14回市町村対抗福島県軟式野球大会	6
新農業委員会委員・農地利用最適化推進委員のご紹介	8
令和2年国勢調査を実施します	9
まちの話題	10
齋藤町長のスマイルトーク・図書室だより	11
お知らせインフォメーション	12
こどもと健康の広場	16
ばんげの夜空彩る打ち上げ花火・七夕飾り設置	18

表紙：願いをこめて
—夏の夜空を鮮やかに彩る—

8月8日に「疫病退散！希望の花火」が打ち上げられました。

続報・高寺山遺跡調査成果

奈良時代の遺物発見！

町では平成29年度から高寺山遺跡調査を行ってきました。第2次調査（令和元年度）では御神体や修法壇が検出されるなど、山岳寺院「高寺」の歴史を証明する重要な発見が相次ぎました。今回はこの第2次調査において出土した遺物から判明した事柄とこれまでの成果をお伝えします。

会津地方では珍しい奈良時代の遺物と判明

専門家の調査により、第2次調査で出土した土器の一部が奈良時代（710―794年）のものであることが判明しました。会津地方において奈良時代の出土品が検出されることは大変珍しく、高寺だけでなく会津の歴史を知る上で大変貴重な発見となりました。

また、この出土により

これまで平安時代（794―1185年）と考えられていた高寺の造営年代は、慧日寺（磐梯町）よりさらに古い奈良時代であると推定されました。

▼奈良時代の遺物

須恵器の坏（飲食具）

土師器の甕（煮沸具）

特に須恵器の坏は、会津地方で作られたものではなく、北関東地方から持ち込まれた可能性があります。

土師器…弥生時代以来の技法で焼かれたものです。赤褐色で比較的軟質ですが耐火性があります。

須恵器…朝鮮半島から伝わった窯で焼かれたものです。灰色で硬く耐水性があります。

坏……飲食物を盛るのに用いた椀形の器

甕……飲食物を盛るのに用いた椀形の器

土師器の甕

須恵器の坏



かめ

▼土師器の甕の出土状況

遺跡中央部の平場から見つかりました。



高寺山遺跡とその時代

古代の東北地方では、724年に陸奥国府の多賀城（宮城県多賀城市）、続いて759年に蝦夷対策の前線基地となる桃生城（宮城県石巻市）が造営されます。

高寺山遺跡は、ちょうどこの頃に造営されたことが、今回判明しました。

これまで行った町内の遺跡分布調査で、奈良時代の遺跡は14か所、平安時代の遺跡は144か所が確認されています。平安時代に遺跡数が約10倍にも増加し、その大半が9世紀代に集中していることも判かっています。

この背景には、律令国家による会津盆地の開発事業や蝦夷対策による移民政策などが関係しているようです。

このような動向に対応して、高寺山遺跡も何度かの改変が行われていました。

今後、高寺山遺跡の発掘調査報告書内で明らかにしていきます。



八角円堂跡

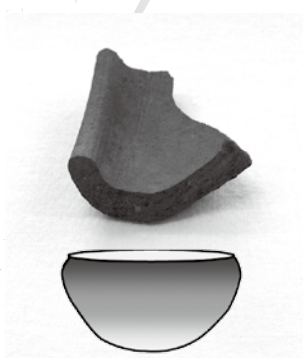


修法壇の配石遺構



遺物の出土状況

▼復元した御神体と考えられる流紋岩



▲仏鉢の破片(縁の部分)



流紋岩(御神体)の出土状況

これまでの成果

高寺山遺跡は、高寺山東側の標高373〜393mに立地する約2万㎡の遺跡です。ここには大小11面の平場が存在します。これまで行った調査で、広隆寺(京都府)のような八角円堂跡をはじめ、**修法壇の配石遺構**、**水行の石敷遺構**などが検出されました。また、自然石の流紋岩が焼けて弾けた状態で出土しており、幸神社(京都府)と同じ**御神体**と考えられました。さらに仏鉢の出土により、ここには間違いなく僧侶が居たことが確認できました。

◆展示会のお知らせ

会津坂下町埋蔵文化財センターでは、今秋、高寺山遺跡の速報展を実施する予定です。出土した土器や、御神体と考えられる自然石などを展示します。詳細は、広報などでお知らせします。



水行の石敷遺構